

島津久光

しまづ ひさみつ

薩摩藩大隅重豪領主。文化十四年十月二十四日薩

摩國生れ、明治二十年十一月六日歿（二八七一七七）。諱忠教、久光、字

善輝、通稱善之進、又次郎、三郎、山城、周防、和泉。號雙松、大簡、

無志翁、頑古道人、惟宗朝臣久光、源久光。藩主島津齊興の二男、島

津齊彬の異母弟。安政五年齊彬の遺命により實子忠義を藩主となり、

藩政の實權を執る。文久二年藩兵を率ゐり上洛、伏見寺田屋で尊攘派

を鎮壓、勅使大原重徳に隨行して江戸へ赴き藩政改革を實行し、歸途

生麥事件を起す。翌年幕政、朝政に加はり、元治元年禁門の變で八公武

合體派の中心となる。明治七年左大臣に就任、翌年歸郷。八公爵。

著書『近世詩文・第一集』（合著・櫛崎隆存編、明治十年十一月大阪

・鹿田靜七出版）等。

